

---

## 原 著

---

### がん化学療法に伴う脱毛体験が患者の日常生活へ及ぼす影響

森 恵子<sup>1)</sup>, 三原典子<sup>2)</sup>, 宮下 茉記<sup>3)</sup>,  
寺岡 知里<sup>4)</sup>, 梅村 知佳<sup>5)</sup>, 今井 芳枝<sup>1)</sup>,  
雄西 智恵美<sup>1)</sup>, 板東 孝枝<sup>1)</sup>, 三木 幸代<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, <sup>2)</sup>徳島大学病院,

<sup>3)</sup>神戸大学病院, <sup>4)</sup>兵庫県立淡路病院, <sup>5)</sup>医療法人 済美会 昭和病院

**要 旨** がん化学療法に伴う脱毛体験が患者の日常生活にもたらす影響について明らかにすることを目的に、15名の患者に対して自由回答法による半構造化面接を実施した。同意を得て録音した面接内容の逐語録をデータとして、Krippendorff. Kの内容分析の手法を用いて分析を行った。分析の結果、がん化学療法に伴う脱毛体験が患者の日常生活にもたらす影響として、【脱毛した自分に違和感を感じながら人目を気にして生活する】【脱毛に備えて事前に準備する】【脱毛は仕方がないと捉え治療を受けることを優先させる】【予想以上の急速大量脱毛にがんであることの実感を突きつけられる】【時間をかけて脱毛の事実を受け入れ違う捉え方を見出す努力をする】【他者と距離を取りながら生活する】【立場、性差による脱毛の捉え方の違いを実感する】【脱毛した毛髪の処理を気にかけて生活する】【脱毛のつらい経験から検診の啓蒙活動を行う】の9つが明らかとなった。脱毛に対して事前に十分な準備が行え、自分なりの対処法についてイメージできるよう具体的な情報提供を行うとともに、性差、治療効果や患者の治療への思いなどによって脱毛に対する捉え方はさまざまであることから、看護師はその人自身の脱毛の受け止め方や、脱毛が及ぼす生活への支障について把握し、必要な情報を提供することや患者の思いが表出しやすい環境を整えることが大切である。

キーワード：がん化学療法に伴う脱毛、内容分析、情報提供

#### はじめに

化学療法に伴う脱毛は、高頻度に発現する有害事象であるにもかかわらず、生命の危機には直結せず、治療が終了すれば再発毛するという認識から、対処方法などが軽視されがちであった<sup>1)</sup>。また、嘔気・嘔吐、骨髄抑制などに対しては、制吐剤の投与、がん化学療法による好中球減少症にはG-CSF製剤の投与などが行われ効果が認められているが<sup>2)</sup>、脱毛は現在でもなお患者に苦痛を強い症状であるにもかかわらず、頭皮クーリングの有

効性について報告された研究<sup>3-6)</sup>が若干あるものの、確立された予防法がないのが現状である。

化学療法に伴う脱毛を取り扱った研究では、脱毛がもたらすボディ・イメージの変容<sup>7)</sup>、男性患者の脱毛体験<sup>8,9)</sup>、化学療法を受けるがん患者が知覚している苦痛<sup>10,11)</sup>、脱毛体験の男女間の比較<sup>12,13)</sup>、乳がん患者における化学療法による脱毛のQOL (Quality of Life, 以下QOLと略す) への影響・脱毛に対する認識<sup>14-16)</sup>等に関する研究が行われているが、いずれの研究においても脱毛を、化学療法に伴うさまざまな有害事象の1つの症状として同等に取り扱った中での体験として取り上げており、「脱毛」という体験のみに焦点を当て、脱毛体験が患者の日常生活にどのような影響を及ぼしているかについて、患者の体験を詳細に明らかにした研究は少ない。化学療法に伴う脱毛を、治療選択に影響を及ぼすほどの体験<sup>7)</sup>と

---

2013年1月11日受付

2013年2月26日受理

別刷請求先：森恵子, 〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15  
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

捉える患者もいることから、化学療法と脱毛を天秤にかけ、治療を選択した患者にとっても、脱毛体験が患者に何らかの影響を及ぼしていると予測される。このことから、化学療法に伴う脱毛体験が患者にとってどのような体験であるかについて、患者の体験を詳細に明らかにすることが必要であると考えられる。

## 研究方法

1. 研究目的：がん化学療法に伴う脱毛体験が、患者の日常生活にどのように影響を及ぼしているかを明らかにする。
2. 対象者：本研究では、以下の3つの条件をすべて満たす者を対象者とする。
  - ①担当医より正確な疾患名、病状の説明を受けている20歳以上の者(がんの発症部位、性別は問わない)で、現在、外来化学療法を継続している者(使用薬剤の種類、投与量は問わない)。
  - ②化学療法の有害事象として脱毛が生じている者(脱毛の部位は頭髪のみならず、全身の体毛とする)。
  - ③化学療法あるいは症状の進行状況上、身体的、精神的にコミュニケーションが可能であり、研究参加への同意が得られた者。
3. 調査の場：四国地方にあるがん診療連携拠点病院の外来化学療法室をデータ収集フィールドとする。
4. 調査内容  
がんと伝えられた時の思い、化学療法の必要性について説明された時の思い、脱毛が起こると説明された時の思い、脱毛による日常生活への影響、対処法などからなるインタビューガイドを作成し、それをもとに自由回答法による半構造化面接を実施する。
5. データ収集方法  
データ収集フィールドの看護師長より紹介を受けた研究対象候補者に、プライバシーの保持可能な個室において研究目的およびデータ収集方法について説明し、研究参加の同意の得られた者を研究対象とする。面接は1人につき1回、外来受診日にプライバシーの保持可能な個室に準ずる環境で行い、面接内容は対象者の許可を得て

ICレコーダーに録音する。録音許可が得られない場合にはメモを取りながら面接を行い、面接終了後、速やかに面接内容の筆記を行う。

## 6. 倫理的配慮

自由意思に基づく研究参加であること、参加拒否による不利益のないこと、プライバシーの保護、匿名性の遵守、研究者の守秘義務、データの保管と廃棄、研究成果の公表について文書を用いて説明し、十分な理解を得た後、「同意書」への署名を依頼した。また、面接に伴う対象者の疲労に配慮し対応した。尚、研究実施に際しては、データ収集施設の倫理委員会の承認を得た。

7. データ収集期間：平成22年9月～平成23年11月。

## 8. 用語の定義

本研究では、「脱毛」、及び、「日常生活」を、以下の通り定義する。

脱毛：頭髪のみならず全身の体毛の脱毛。

日常生活：がんに対する化学療法に伴う脱毛を抱えながら毎日繰り返される日々の生活の中で繰り返される出来事や習慣的動作、そこで用いられる物の考え方や知識、接する物などから構成されるもの。

## 9. 分析方法

面接内容の逐語録を質的データとし、Krippendorff, K.<sup>18)</sup>の内容分析の手法を用いて分析を行った。「がん化学療法に伴う脱毛が患者の日常生活へ及ぼす影響」について示す記述部分を抽出し、抽出したコードについて文脈にそって意味の解釈を行い、徐々に抽象度をあげながら、サブカテゴリー、カテゴリーの順に分類した。分析に際しては研究者間でディスカッションを行うとともに、質的研究の専門家からスーパーバイズを得た。

## 結 果

### 1. 対象者の概要

対象者は15名で、その内訳は女性12名、男性3名、年齢は23歳～70歳で、平均年齢は56.7歳であった。対象者の詳細は表1に示す通りである。対象者全員から面接内容録音の承諾が得られた。面接時間は1人につき15分から65分を要し、平均面接時間は30.5分であった。

表1. 対象者の概要

対象	性別	年代	疾患	脱毛の部位
1	女性	50代	胃がん	髪, 眉毛, 睫毛, 鼻毛
2	男性	60代	肺腺がん	髪
3	女性	70代	肺腺がん	髪, 眉毛, 睫毛
4	女性	70代	肺がん	髪, 睫毛
5	女性	50代	乳がん	髪, 眉毛
6	女性	20代	卵巣がん	髪, 眉毛, 睫毛, 鼻毛
7	女性	40代	乳がん	髪, 眉毛, 睫毛
8	女性	60代	乳がん	髪, 眉毛, 睫毛
9	男性	60代	胃がん	髪, 眉毛, 睫毛, 陰毛
10	男性	50代	胃がん	髪, 腋毛, 陰毛
11	女性	70代	腹膜がん	髪, 眉毛, 睫毛, 陰毛
12	女性	60代	肺がん	髪, 眉毛, 睫毛
13	女性	30代	バジレット病	髪, 眉毛, 睫毛
14	女性	20代	乳がん	髪, 眉毛, 睫毛
15	女性	60代	乳がん	髪, 眉毛, 睫毛

## 2. がん化学療法に伴う脱毛が患者の日常生活へ及ぼす影響

分析の結果, がん化学療法に伴う脱毛が患者の日常生活へ及ぼす影響として, 表2に示す9のカテゴリーと32のサブカテゴリーが抽出された。以下に, カテゴリーを導き出すに至った対象者の特徴的な語りを交えながら説明する。尚, 【 】は化学療法に伴う脱毛が患者の日常生活へ及ぼす影響に関するカテゴリー, [ ]はサブカテゴリー, 「 」は対象者の実際の語りを示す。また, ( )は対象者のコードを示す。

【脱毛した自分に違和感を感じながら人目を気にして生活する】は, 脱毛した自分の姿にじっくりこない感覚を持ち, 脱毛した姿を他者に見られないよう人目を気にしながら生活している患者の体験を表す。これには [帽子やウィッグを絶えず身近に準備する], [脱毛した姿を人目にさらすことを嫌悪する], [他者の視線を絶えず気にして生活する], [外見の変化を少しでも目立たせないよう努力する], [発毛した姿で遺影の写真を撮りたいと希望する], [帽子をかぶっている人に注目する]の6つが含まれた。

[帽子やウィッグを絶えず身近に準備する]は, 脱毛した姿を人目にさらしたくないことから, 絶えず身近に帽子やウィッグを準備して生活していることを表す。対象者は, 「家では(かつらを)脱いだり, 着たり, 人が来たらびっくりされると思うので, すぐにつけれるようにしたり(7)」と語った。

[脱毛した姿を人目にさらすことを嫌悪する]は, 脱毛した姿を他者に見られることを非常に嫌だと感じていることを表す。対象者は, 「見た目のことがあるからってのと, こんな格好(脱毛した状況)で出て行きたくないのと両方あるから, 自分をさらけ出すのが嫌だし, 人に見られるのも嫌っていうのが根底にあるのかな(9)」と語った。

[他者の視線を絶えず気にして生活する]は, 脱毛している頭を絶えず他者に見られている感覚を持ちながら生活していることを表す。対象者は, 「近所の人目が気になる。(陰で)何か言われているんじゃないかって(4)」と語った。

[外見の変化を少しでも目立たせないよう努力する]は, 脱毛による変化の程度が少なくて済むよう, ウィッグやつけ睫毛を用いてできる限り脱毛前の姿を維持させようと試行錯誤していることを表す。対象者は, 「睫毛がないのがやっぱり嫌やな。つけ睫毛とか練習してみたけど難しかった。眉毛はアート(刺青)にしとるんよ(11)」と語った。

[発毛した姿で遺影の写真を撮りたいと希望する]は, 亡くなった後も, 脱毛した姿を人目にさらすことを嫌だと感じており, 遺影の写真は発毛した姿で撮影したいという希望を持っていることを表す。対象者は, 「私が今一番悩んどるんは, もうちょっと黒い髪の毛があったら(葬式用の)写真をこしらえときたい(撮影しておきたい)(3)」と語った。

[帽子をかぶっている人に注目する]は, 病院内や外出時に帽子をかぶっている人を見かけると, 抗がん剤治療のために脱毛しているのではないかと考え, 目で追ってしまうことを表す。対象者は, 「帽子をかぶっている方を見たら, 同じ(抗がん剤の影響で脱毛している)なのかなとは思いますが(5)」と語った。

【脱毛に備えて事前に準備する】は, 抗がん剤治療によりいずれ脱毛が起ると認識しており, 脱毛時すぐに対応できるよう, 脱毛前からウィッグや帽子, 髪を短く切るなどの準備をしていることを表す。これには [脱毛に備えてウィッグの準備をする], [髪を短く切ったり長さを揃える], [高額なウィッグの購入を躊躇する], [医療者, インターネット, 同病者から脱毛について情報収集する]の4つが含まれた。

[脱毛に備えてウィッグの準備をする]は, 今後の脱毛に備えてウィッグを購入して準備をしていることを表す。対象者は, 「(脱毛に備えて)かつらを買ったり, 帽

子を買ったり、ネットを買ったり。そういう準備はしてました(5)」と語った。

【髪を短く切ったり長さを揃える】は、脱毛に備えて髪を短く切り長さを揃えることで、手入れをしやすくしたり、見栄えを整えようとする行動を表す。対象者は、「抜けるって聞いてたんで、長い髪がバサッと抜けるよりか短く切っていた方が良いので、抜ける前に短くショートヘアにしておきましたね(6)」と語った。

【高額なウィッグの購入を躊躇する】は、ウィッグの購入費用が高額なことから、購入を躊躇していることを表す。対象者は、「(かつらの購入は)値段との相談ですね。お金の問題が大きいですから(7)」と語った。

【医療者、インターネット、同病者から脱毛について情報収集する】は、脱毛についての情報が少なく、疑問を感じることも多い事から、医療者、インターネット、同病者から脱毛について情報を集め、自分なりに対処しようとしていることを表す。対象者は、「病院で2週間ほど入院しとった時にそういう(ウィッグに関する)パンフレットがあったのでそれを見ました(2)」、「実際に自分が使う薬がわかったら必ずインターネットで調べるようになりました(7)」と語った。

【脱毛は仕方がないと捉え治療を受けることを優先させる】は、化学療法に伴い脱毛することは、生きていくためには仕方がない事と捉え、治療後は発毛するという医師の説明を信じ、治療を最優先していることを表す。これには「生きていくために脱毛することは仕方がないと考える」、[治療が終われば再び発毛することを信じて治療を受ける]の2つが含まれた。

【生きていくために脱毛することは仕方がないと考える】は、病気を治療し、生きていくためには化学療法に伴い脱毛が起こることは仕方がないと捉えていることを表す。対象者は、「それより治療よね。先に治療せなあかんと思ってたから。髪の毛が抜けてもしょうがないなって(1)」と語った。

【治療が終われば再び発毛することを信じて治療を受ける】は、治療終了後に再び発毛することを信じ、治療を継続していることを表す。対象者は、「髪が抜けても治ればいい。治ったらまた生えてくるし。これから生えなくなるんやったら考えなきゃと思うけど、治療が終われば元通りになるんやったら悲観的になってもしょうがない(6)」と語った。

【予想以上の急速大量脱毛にがんであることの事実を突きつけられる】は、脱毛量、脱毛の速度が予想をはる

かに超えていたことで、そのような身体症状をもたらす抗がん剤に対して脅威を感じるとともに、それほどの影響をもたらす薬剤を用いる必要のある疾患に自分が罹患していることを思い知らされている患者の体験を表す。これには、[大量で急速な脱毛に驚き、抗がん剤の身体への影響を痛感する]、[脱毛した姿に対峙するたび、がんであることの事実を突きつけられる]、[頭髪、鼻毛、睫毛の脱毛により、本来備わっていた生理機能の消失を実感する]の3つが含まれた。

【大量で急速な脱毛に驚き、抗がん剤の身体への影響を痛感する】は、脱毛のスピードが速く、加えて脱毛量も大量であったことから、そのような有害事象をもたらす抗がん剤は、正常な身体機能にも多大なる影響をもたらしていると認識していることを表す。対象者は、「ここまで抜けてしまうんだなって。抗がん剤の薬の副作用はかなりのもんだなって思いましたね(10)」と語った。

【脱毛した姿に対峙するたび、がんであることの事実を突きつけられる】は、脱毛は外見の変化をもたらし、鏡に向かい脱毛した自分の姿を見るたびに、自分が「がん」に罹患し、そのために脱毛を伴う抗がん剤による治療を受けているという事実を思い知らされる体験を表している。対象者は、「(脱毛以外の)他の副作用はなかったんですよ。そやから自分が病気だと思知らされるのが唯一頭髪が抜けること。そのうち体中の眉毛や睫毛もみな抜けた時には「ああ、これがこういう病気(がん)なんだな」って思い知らされました(8)」と語った。

【頭髪、鼻毛、睫毛の脱毛により本来備わっていた生理機能の消失を実感する】は、頭髪が脱毛したことにより、頭部の温度調節が難しくなったことや、鼻毛の脱毛により鼻水の流出が止まらなくなること、睫毛が抜けて目にゴミが入りやすくなることなどの生理機能、身体の防御機能へ影響が及んでいると感じていることを表す。対象者は、「鼻毛がなくなったことで鼻水が止まらないんよね。出るときにだらーっと流れてしまうんよね(10)」、「まつ毛が抜けて目にゴミが入りやすくなった気がします(15)」と語った。

【時間をかけて脱毛の事実を受け入れ違う捉え方を見出す努力をする】は、時間をかけて脱毛の事実を受け入れ、脱毛したことのネガティブな面だけでなく、脱毛体験をポジティブに捉えなおそうとしている体験を表す。これには「おしゃれを楽しむ気持ちを持つ」、[脱毛を治療効果と捉える]、[脱毛した髪型も髪型遍歴の一つと捉える]、[脱毛しても、人間としての存在意義は何ら変わ

らないと捉える], [脱毛予防薬の開発を期待する], [他の化学療法に伴う副作用よりましだと認識する] の6つが含まれた。

【おしゃれを楽しむ気持ちを持つ】は、脱毛後もウィッグやつけまつ毛を装着するなど脱毛したことを契機に、これまで経験したことのなかったおしゃれを楽しもうという気持ちを持つことを表す。対象者は、「毎日ウィッグのサイトを見るのが楽しかったり、新しいのが出てたらこれ買おうかなって思ったり。こういう病気(がん)やからこそできたと思う(6)」と語った。

【脱毛を治療効果と捉える】は、抗がん剤の投与により腫瘍の縮小など治療効果を医師より伝えられ、自ら治療効果を実感できた体験から、脱毛を苦痛と捉えず、治療効果の代償として捉えていることを表す。対象者は、「副作用が色々ありますが、もうそれより効いている方が嬉しいので。我慢できるっていう言い方はおかしいのですけど。(脱毛は) 苦にならない(5)」と語った。

【脱毛した髪型も髪型遍歴の一つと捉える】は、治療で脱毛が起こっていることをこれまでさまざまな髪形をしてきたように、脱毛した状態を、髪型の一つとして捉えることで脱毛体験をやり過ごそうとしていることを表す。対象者は、「(脱毛した状態も) それも個性として捉えられるくらいの気持ちで(7)」と語った。

【脱毛により人間としての存在意義は何ら変わらないと捉える】は、脱毛によって変化したのは外見だけで人間としての本質は何ら変化していないという捉え方をしていることを表す。対象者は、「僕の考え方からしたら、脱毛したことで人間が変わることやないからね(10)」と語った。

【脱毛予防薬の開発を期待する】は、制吐剤の開発により嘔気や嘔吐がコントロールされてきたことから、今後脱毛に対しても何らかの予防薬、治療薬が開発されることを強く望む気持ちを表す。対象者は、「そのうちに薬ができるんじゃないですか。脱毛の。まあ、人体に影響がないから後回しなんでしょうけど(2)」と語った。

【他の化学療法に伴う副作用よりましだと認識する】は、化学療法により引き起こされる嘔気・嘔吐、食事摂取量の低下等の有害事象と比較して、脱毛は生命に直結する有害事象ではないため、他の有害事象の出現がなく、脱毛で済んでいることに安堵している体験を表す。対象者は、「薬によったら吐いたり、下痢したり。脱毛の方がましかな。最初の衝撃は大きいけど、倦怠感とか嘔吐とか下痢とかに比べたら髪の毛なんてそんなもんじゃな

い。脱毛は痛みとかはないし、ただショックなだけで(6)」と語った。

【他者と距離を取りながら生活する】は、家族や周囲の人に心配をかけたくない、脱毛や病気に関して話したくないという思いから、自分から他者との交流を控えていることを表す。これには「家族に心配をかけたくないため病気や脱毛について相談しない」、[脱毛や病気について話す機会を減らすために他者との交流を控える]、[ウィッグをつけた自分に違和感を持つ] の3つが含まれた。

【家族に心配をかけたくないため病気や脱毛について相談しない】は、自分の最も近くで治療経過を見守る家族に心配をかけたくないという思いから、治療に伴う症状について家族にはあえて相談しないという患者の信念を表す。対象者は、「(家族には) 言わんようにしてる。こういうこと話したら家族も辛いし(1)」と語った。

【脱毛や病気について話す機会を減らすために他者との交流を控える】は、脱毛していることや病気のことを話したくないために、他者との交流を控えるようになった体験を表す。対象者は、「友人には言えないです。連絡もしない。携帯にかかってきてもとらないし。心配して家に来てくれたりもしたけど会うことできなかったですね。髪もないし、状態も悪かったし。会うことできないよね(1)」と語った。

【ウィッグをつけた自分に違和感を持つ】は、脱毛によりウィッグを装着した自分の容姿に受け入れがたい違和感を感じており、自分が自分自身に対して違和感を感じるような姿を他者の目にさらすことを嫌だと感じ、そのことが他者との交流を控える行動をとるきっかけになっていることを表す。対象者は、「脱毛が起こって、鏡の中のかつら姿の自分に慣れるのに時間がかかりました。今も慣れませんけど(14)」と語った。

【立場、性差による脱毛の捉え方の違いを実感する】は、医療従事者、性差によって脱毛の捉え方はさまざまであると認識していることを表す。これには「女性の方が男性より脱毛を気にしていると感じる」、[女性にとって髪は一番重要だと捉える]、[坊主頭で外出することに違和感を感じない]、[医師は脱毛の苦しみを理解していないと感じる] の4つが含まれた。

【女性の方が男性より脱毛を気にしていると感じる】は、男女間で脱毛の捉え方は違うと認識し、女性の方がより脱毛による影響を強く気にしていると感じていることを表す。対象者は、「男は辛抱できるけど、女の人は

やっぱり、男の人は、そこまで（ウィッグを装着する）  
せんでもいいだろうというのが僕の本音なんです（9）」  
と語った。

〔女性にとって髪は一番重要だと捉える〕は、女性に  
とって髪は非常に重要なからだの部分だと捉えていること  
を表す。対象者は、「女性にとって髪の毛は一番で  
（4）」と語った。

〔坊主頭で外出することに違和感を感じない〕は、幼  
少期に坊主頭を体験していることが多い男性の場合、坊  
主頭で生活することのイメージがわきやすく、坊主頭で  
生活した経験のない女性と比較して、坊主頭で生活する  
ことに違和感を感じていないことを表している。対象者  
は、「中学校から坊主やったから（脱毛しても）そんな  
に違和感はなかったですね（10）」と語った。

〔医師は脱毛の苦しみを理解していないと感じる〕は、  
医師の発言や脱毛に対する捉え方を知り、医師は脱毛す  
ることよりも治療効果の有無に最大限の関心を持ってい  
ると認識していることを表す。対象者は、「先生方は他  
の事（治療効果）を優先させたいっていうのが絶対ある  
だろうし、今、私手がすごいいびれているんですね。し  
びれと脱毛はしょうがないみたいな分類なので（7）」  
と語った。

【脱毛した毛髪の処理を気かけながら生活する】は、  
脱毛した毛髪の処理のことを絶えず気にしながら生活し  
ていることを表す。これには〔脱毛した毛髪を他者に掃  
除してもらうことに嫌悪感を持つ〕、〔絶えず脱毛した毛  
髪のことを気かける〕、〔髪が抜けないう気を配る〕  
の3つが含まれた。

表2. がん化学療法に伴う脱毛が日常生活に及ぼす影響

カテゴリー	サブカテゴリー
脱毛した自分に違和感を感じながら人目を気にして生活する	帽子やウィッグ絶えず身近に準備する
	脱毛した姿を人目にさらすことを嫌悪する
	他者の視線を絶えず気にして生活する
	外見の変化を少しでも目立たせないよう努力する
	発毛した姿で遺影の写真を撮りたいと希望する
脱毛にかぶっている人に注目する	帽子をかぶっている人に注目する
	脱毛に備えてウィッグの準備をする
	髪を短く切ったり長さを揃える
	高額なウィッグの購入を躊躇する
医療者、インターネット、同病者から脱毛について情報収集する	医療者、インターネット、同病者から脱毛について情報収集する
	生きていくために脱毛することは仕方がないと考える
治療が終れば再び発毛することを信じて治療を受ける	治療が終れば再び発毛することを信じて治療を受ける
	大量で急速な脱毛に驚き抗がん剤の身体への影響を痛感する
予想以上の急速大量脱毛に、がんであることの実感を突きつけられる	大量で急速な脱毛に驚き抗がん剤の身体への影響を痛感する
	脱毛した姿に対峙するたび、がんであることの実感を突きつけられる
	頭髪、鼻毛、睫毛の脱毛により本来備わっていた生理機能の消失を実感する
時間をかけて脱毛の事実を受け入れ違う捉え方を見出す努力をする	おしゃれを楽しむ気持ちを持つ
	脱毛を治療効果と捉える
	脱毛した髪型も髪型遍歴の一つと捉える
	脱毛しても、人間としての存在意義は何ら変わらないと捉える
	将来の脱毛予防薬の開発を期待する
他の化学療法に伴う副作用よりまじだと認識する	他の化学療法に伴う副作用よりまじだと認識する
	家族に心配をかけたくないため病気や脱毛について相談しない
	脱毛や病気について話す機会を減らすために他者との交流を控える
ウィッグをつけた自分に違和感を持つ	ウィッグをつけた自分に違和感を持つ
	女性の方が男性より脱毛を気にしていると感じる
	女性にとって髪は一番重要だと捉える
坊主頭で外出することに違和感を感じない	坊主頭で外出することに違和感を感じない
	医師は脱毛の苦しみを理解していないと感じる
	医師は脱毛の苦しみを理解していないと感じる
脱毛した毛髪の処理を気かけながら生活する	脱毛した毛髪を他者に掃除してもらうことに嫌悪感を持つ
	絶えず脱毛した毛髪のことを気かける
	髪が抜けないう気を配る
脱毛のつらい経験から検診の啓蒙活動を行う	脱毛した姿を他者に見せ検診の啓蒙を行う

〔脱毛した毛髪を他者に掃除してもらうことに嫌悪感を持つ〕は、脱毛した自分の毛髪を他者に片づけてもらうことを非常に申し訳ないと感じており、他者に迷惑をかけることになる自分の脱毛に対して嫌悪感を抱いていることを表す。対象者は、「バサッて抜けて、シートの上は髪のコ毛や、なんや黒いの。目が悪うて見えんくて、よく見たら髪のコ毛やって、下にもいっぱい落ちたしな。人に掃除してもらうん悪かったわ (11)」と語った。

〔絶えず脱毛した毛髪のことを気にかける〕は、常に脱毛した毛髪のことになり、家族や友人などが抜けた毛髪を気にしないよう清掃用粘着テープやガムテープが手放せない状態であることを表す。対象者は、「落下防止のネットかぶって、お掃除の事ばかり気になって (5)」、「ローラーとかねあれじゃ追いつかないから、ガムテープやね。至る所に置いてある。4か所くらい。それは自分のためじゃなくて友達とか見るんが嫌だろなって思うんです (8)」と語った。

〔髪が抜けないよう気を配る〕は、少しでも髪が抜けないように試行錯誤している患者の体験を表す。対象者は、「シャンプーをするときに柔らかくシャンプーせなって (2)」と語った。

【脱毛のつらい経験から検診の啓蒙活動を行う】は、がん化学療法に伴う辛い脱毛体験について語ることで、がん検診の重要性についての啓蒙につながると考え、そのことを自分の社会的役割であると認識していることを表す。これには〔脱毛した姿を他者に見せ検診の啓蒙を行う〕の1つが含まれる。対象者は、「こんな治療して、こんなこんなんだって説明して。検診、検診、検診って。それが一番。もう検診を早くにっていうの言わないって思ってます (5)」と語った。

## 考 察

がん化学療法に伴う脱毛を体験していた対象者は、担当医師より、治療開始に先立ち化学療法に伴い脱毛が起こること、治療終了後は再発毛することについて説明を受けており、事前にウィッグ、帽子、ネットの購入や、脱毛した頭部の手入れをしやすくしたり、見栄えを整えるために髪を短く切り、長さを揃えるなど、自ら【脱毛に備えて事前に準備する】行動をとっていた。野中が<sup>19)</sup>、脱毛前にできるケアとして患者が眉の型取りを希望していたことを明らかにしていたり、本研究の対象者の中にも眉毛の脱毛に対してタトゥーを入れている患者がいた

ことは、患者は頭髪のみならず、眉毛の脱毛に伴う影響をも考慮に入れて準備していたことを表している。このことは、脱毛に伴う外見の変化をより最小限にとどめようとする患者の気持ちの表れであると考えられる。また外見の変化に対するケアニーズは年齢に関係なく高くなっていたことから、年齢、年代に関係なく脱毛に伴う外見の変化をより最小限にしようとする患者の気持ちに添う支援の必要性が示唆された。化学療法に伴う脱毛を予測し、準備をして治療に臨んだにも関わらず、脱毛が患者の予想をはるかに超えた急速・大量脱毛であったことから、【予想以上の急速大量脱毛にがんであることの実事を突きつけられる】体験をしていたが、生きていくためには、【脱毛は仕方がないと捉え治療を受けることを優先させる】という価値の転換を図っていた。

対象者は、化学療法に伴う脱毛を仕方がないことと捉える一方で、【脱毛した自分に違和感を感じながら人目を気にして生活する】体験や、【脱毛した毛髪の処理を気かけながら生活する】体験をしていた。脱毛がもたらす外見の変化は、患者に、【脱毛した自分に違和感を感じながら人目を気にして生活する】行動をもたらししていた。なるべく人目につかないよう、人から脱毛について指摘されないよう、意識して生活する中で、脱毛に伴う外見の変化により、人の意識に上る存在になったり、毛髪の処理を、他者にゆだねなくてはならない状況になることは、患者にとって避けたい状況であり、そのような状況に陥らないためには、【他者と距離を取りながら生活する】必要があり、その結果として、患者の生活圏の狭小化につながっていったと考える。石田は<sup>20)</sup>、外来で化学療法を受けている乳癌再発患者の日常生活上の気がかりとして、脱毛による活動範囲の縮小を明らかにしていた。加えて本研究の対象者が、【脱毛した自分に違和感を感じながら人目を気にして生活する】体験をしていたことは、脱毛体験が周囲からの孤立感をもたらし、生活圏の狭小化をさらに助長する可能性がある。対象者は、孤立し、狭小化された生活圏の中で、脱毛に対する思いや、不安を表出する場、機会を持ってない可能性があることから、看護師が意図的に思いの傾聴や、不安を表出できる場を提供することが必要と考える。

脱毛は化学療法中一貫して患者に苦悩をもたらし、ボディ・イメージに影響を与える有害事象であり、患者に不安や抑うつ、セクシャリティーへの影響、自尊心の低下、社会的機能の低下をもたらし、仕事への復帰に影響を与えることから、患者のQOL低下をもたらし要因と

なっていた<sup>21)</sup>。加えて、外来で化学療法を受ける患者の5割以上が、治療を受けながら生活していくうえで「倦怠感」「脱毛」を身体的苦痛として感じていた<sup>22)</sup>。このことから、脱毛をもたらす化学療法の必要性、治療後の再発毛についての説明だけでなく、QOL低下をもたらす可能性のある脱毛の日常生活への影響について、患者個々の体験に耳を傾け、その影響を最小限にするための支援について患者と共に考えていくことが脱毛を体験する患者のQOLの維持・向上につながると考える。

脱毛体験を気がかり、苦痛と捉える患者がいる一方で、治療効果の代償として捉える患者もいたことから、脱毛体験は、体験する個々によりその捉え方に相違が認められる。脱毛をネガティブな体験として捉える患者にとっては、脱毛が人との距離を広げる体験にもなる。患者が【立場、性差による脱毛の捉え方の違いを実感する】体験をしていたことから、看護師は年齢や性別にとらわれず、その人自身の脱毛の受け止め方に寄り添って関わるのが大切であると考え。このことは野中<sup>23)</sup>が年齢にかかわらず外見の変化に対するケアニーズが高くなっていることを明らかにしていたことを支持する結果であった。また、Heskethら<sup>24)</sup>が、看護師等のヘルスケア提供者は、脱毛を体験しているその現場、その状況で、個別的なアプローチを行うことが重要であると述べていることから、患者の話を傾聴し、患者個々のその時点での脱毛の捉え方、脱毛体験を知ることが重要である。また「医師は脱毛よりも治療を優先に考えている」という患者の言葉は、[医師は脱毛の苦しみを理解していないと感じる]体験によると考える。医師が本来の役割として、治療を優先的に考えることは当然のことと理解できてはいても、脱毛の苦しみを理解してほしいという気持ちを対象者が強く持っていたと考える。生きていくためには仕方ないことと脱毛を捉えている患者が、時に自分の決断に迷いや葛藤を抱えながらも、脱毛よりも治療を優先したことを納得して治療継続できるよう患者の思いを表出しやすい環境づくりも重要となる。そのために看護師は患者と医師との橋渡しの役割を担う必要があると考える。

化学療法に伴う脱毛は長期に持続する有害事象であり、その期間患者の治療に対する意欲が維持できるよう支援することも重要となる。Frithら<sup>25)</sup>の研究では、乳がんのために化学療法を受ける患者が、脱毛に対して予期的適応を行い、脱毛の状況を自らコントロールしていたことを明らかにしていた。脱毛した状況がイメージでき、

具体的な対処法を検討しておくためには、十分な情報が必要である。また、実際に脱毛が起こった後、長期間患者が脱毛に適応して治療に前向きに取り組んでいけるために、脱毛体験のプロセスの中で、ウィッグを用いておしゃれを楽しむ気持ちを持ったり、脱毛した髪型も髪型遍歴の一つと捉えるなど、脱毛体験をポジティブに捉えることができるような助言も必要と考える。脱毛体験をポジティブに捉えている他患者の体験などについて情報を提供していくことも、視点の切り替えにつながる重要な支援であり、看護師の重要な役割であると考え。

## 結 論

### 1. がん化学療法に伴う脱毛が患者の日常生活へ及ぼす影響

がん化学療法に伴う脱毛が患者の日常生活へ及ぼす影響として、【脱毛した自分に違和感を感じながら人目に気にして生活する】【脱毛に備えて事前に準備する】【脱毛は仕方がないと捉え治療を受けることを優先させる】【予想以上の急速大量脱毛にがんであることの実感を突きつけられる】【時間をかけて脱毛の事実を受け入れ違う捉え方を見出す努力をする】【他者と距離を取りながら生活する】【立場、性差による脱毛の捉え方の違いを実感する】【脱毛した毛髪の処理を気かけながら生活する】【脱毛のつらい経験から検診の啓蒙活動を行う】の9つの体験が明らかとなった。

### 2. がん化学療法に伴う脱毛を体験している患者に必要な看護

脱毛に対して事前に十分な準備が行え、自分なりの対処法がイメージできるよう、実際に化学療法に伴う脱毛を体験した患者、あるいは現在体験している患者から、どのように脱毛に対処しているかについて情報が得られる機会を設定したり、これまでの看護支援の経験の中で得た脱毛への対処法などについて、具体的な情報提供を行うことが重要と考える。加えて、性差、治療効果や患者の治療への思いなどによって脱毛に対する捉え方はさまざまであることから、その人自身の脱毛の受け止め方や、脱毛が及ぼす生活への支障について把握し、必要な情報を提供することや患者の思いが表出しやすい環境を整える必要がある。

### 研究の限界と今後の課題

本研究の対象者は15名と少なく、1施設のみでデータ収集を行っているため、本研究結果を一般化することは難しい。今後は対象者数を増やし、複数施設での情報収集が必要と考える。

### 文 献

- 1) 齊田菜穂子, 森山美知子: 外来で化学療法を受けるがん患者が知覚している苦痛, 日本がん看護学会誌, 23(1), 53-60, 2009.
- 2) Carelle N, Piotto E, Bellanger A, et al: Changing patient perceptions of the side effects of cancer chemotherapy. *Cancer* 95(1): 155-163, 2002.
- 3) van den Hurk CJ, Mols F, Vingerhoets AJ, et al: Impact of alopecia and scalp cooling on the well-being of breast cancer patients. *Psychooncology* 19(7): 701-709, 2010.
- 4) van den Hurk CJ, Peerbooms M, van de Poll-Franse LV, et al: Scalp cooling for hair preservation and associated characteristics in 1411 chemotherapy patients-results of the Dutch Scalp Cooling Registry. *Acta Oncol* 51(4): 497-504, 2012.
- 5) Mols F, van den Hurk CJ, Vingerhoets AJ, et al: Scalp cooling to prevent chemotherapy-induced hair loss: practical and clinical considerations. *Support Care Cancer* 17(2): 181-189, 2008.
- 6) van den Hurk CJ, Breed WP, Nortier JW.: Short post-infusion scalp cooling time in the prevention of docetaxel-induced alopecia. *Support Care Cancer* 20(12): 3255-3260, 2012.
- 7) Frith H, Harcourt D, Fussell A.: Anticipating an altered appearance: Women undergoing chemotherapy treatment for breast cancer, *European Journal of Oncology Nursing* 11: 385-391, 2007.
- 8) 濱田麻美子, 大路貴子, 福井玲子: がん化学療法により脱毛を経験した壮年期男性の思いと対処行動, 神戸市看護大学紀要, 11, 19-26, 2007.
- 9) 藤原裕子, 越智紘子, 佐藤章子: 化学療法を受けた男性患者の脱毛に対する意識調査, 中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会誌, 6, 5-8, 2010.
- 10) 松井智枝, 萩田麻貴, 梶谷尚未: がん化学療法患者の脱毛に対する意識—脱毛経験患者からの聞き取り調査を通して—, *International Nursing Care Research*, 7(2), 1347-1341, 2008.
- 11) 齊田菜穂子, 森山美知子: 2) 再掲
- 12) Hilton S, Hunt K, Emslie C, et al: Have men been overlooked? A comparison of young men and women's experiences of chemotherapy-induced alopecia. *Psycho-Oncology* 17: 577-583, 2008.
- 13) Can G, Demir M, Erol O, et al: A comparison of men and women's experiences of chemotherapy-induced alopecia. *Eur J Oncol Nurs*. [Epub ahead of print], 2012.
- 14) Lemieux J, Maunsell E, Provencher L.: Chemotherapy-induced alopecia and effects on quality of life among women with breast cancer: a literature review. *Psycho-Oncology* 17: 317-328, 2008.
- 15) Kim IR, Cho J, Choi EK, et al: Perception, attitudes, preparedness and experience of chemotherapy-induced alopecia among breast cancer patients: a qualitative study. *Asian Pac J Cancer Prev*. 13(4): 1383-1388, 2012.
- 16) Bernard M, Brignone M, Adehossi A, et al: Perception of alopecia by patients requiring chemotherapy for non-small-cell lung cancer: a willingness to pay study. *Lung Cancer* 72(1): 114-118, 2010.
- 17) Hannah Fritha, Diana Harcourt, Anna Fussell.: Anticipating an altered appearance: Women undergoing chemotherapy treatment for breast cancer. *European Journal of Oncology Nursing* 11: 385-391, 2007.
- 18) Klaus Krippendorff (著) 三上俊治, 椎野信雄, 橋元良明 (訳): メッセージ分析の技法「内容分析」への招待, 勁草書房, 2001.
- 19) 野中ひろみ: 乳癌患者の眉毛の脱毛に関する意識調査 美容に関するニーズを知り, 看護ケアを考える, 乳癌の臨床, 27(1), 108-109, 2012.
- 20) 石田和子, 石田順子, 中村真美, その他: 外来で化学療法を受けている再発乳がん患者の日常生活上の気付きと治療継続要因, 群馬保健学紀要, 25: 53-61, 2005.
- 21) Lemieux J, Maunsell E, Provencher L.: 前掲14)
- 22) 齊田菜穂子, 森山美知子: 前掲1)

- 23) 野中ひろみ：前掲17) . peutic approaches. Support Care Cancer 12(8):543-549, 2004.
- 24) Hesketh PJ, Batchelor D, Golant M, et al: Chemotherapy-induced alopecia: psychosocial impact and therapeutic approaches. Support Care Cancer 12(8):543-549, 2004.
- 25) Frith H, Harcourt D, Fussell A. : 前掲7)

## *The effects of chemotherapy-induced alopecic experience on daily living*

*Keiko Mori*<sup>1)</sup>, *Noriko Mihara*<sup>2)</sup>, *Maki Miyashita*<sup>3)</sup>,  
*Chisato Teraoka*<sup>4)</sup>, *Chika Umemura*<sup>5)</sup>, *Yoshie Imai*<sup>1)</sup>,  
*Chiemi Onishi*<sup>1)</sup>, *Takae Bando*<sup>1)</sup>, and *Yukiyo Miki*<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>*Institute of Health Biosciences the University of Tokushima Graduate School, Tokushima, Japan*

<sup>2)</sup>*Tokushima University Hospital, Tokushima, Japan*

<sup>3)</sup>*Kobe University Hospital, Hyogo, Japan*

<sup>4)</sup>*Hyogo Prefectural AWAJI Hospital, Hyogo, Japan*

<sup>5)</sup>*Showa Hospital Saibikai, Hyogo, Japan*

**Abstract** The present study aimed to clarify the effects of chemotherapy-induced alopecia on the daily lives of cancer patients. Semi-structured interviews comprising free-answer questions based on an interview guide were conducted on 15 cancer patients experiencing chemotherapy-induced alopecia. Analysis revealed the following 9 effects of chemotherapy-induced alopecia on patients' daily lives: 'self-consciousness accompanied by feeling strange about oneself due to hair loss', 'preparing for hair loss in advance', 'prioritizing treatment and perceiving hair loss as inevitable', 'come to terms with chemotherapy-induced alopecia gradually, make an effort to find out a different kind of ways for it', 'being hit by the reality of cancer due to greater than anticipated rapid loss of large quantities of hair', 'intentionally living daily life at a distance from others', 'recognizing the situation and the gender-based differences in perception of hair loss', 'worrying about disposing of the lost hair', 'becoming more informed about medical examinations due to the hard experience of hair loss'. The present findings indicated that chemotherapy-induced alopecia is perceived in various ways depending on gender, treatment effectiveness and patients' feelings towards treatment. It is important for nurses to understand patients' individual acceptance of alopecia and related difficulties in daily life while creating an environment that allows patients to express their feelings. Nurses should also provide specific information enabling patients to visualize personal coping techniques and sufficiently prepare for alopecia.

*Key words* : chemotherapy-induced alopecia, content analysis, provision of information